

面会制限について

新型コロナウイルス感染対策のため、入院患者の皆さまへの面会は禁止とさせていただいておりましたが、令和5年4月17日より面会制限へと移行します。

面会時間 一般病棟：午後2時から午後5時（全日） 救命救急センター：午後3時から午後3時30分（全日）

注意事項

- (1) 面会できる方は家族に限定し、患者さん1人につき2名までとします。
- (2) 1日1回15分以内でお願いします。
- (3) 院内では不織布マスク（各自ご持参ください）を着用し、手指消毒の徹底をお願いします。
- (4) デイルーム（ロビー）での面会が可能な患者さんは、デイルーム（ロビー）での面会を優先してください。
- (5) 個室及びデイルーム（ロビー）での面会は同時に2名までといたします。
- (6) 大部屋の面会は、間仕切りカーテン内での面会としてください。
- (7) 荷物（洗濯物等）は、面会時に直接患者さんへの受け渡しをお願いします。
- (8) 以下の場合には面会できません。
 - ・小学生以下のお子様（救命救急センター、3号館5階病棟のみ）
 - ・発熱、咳、のどの痛みなど風邪症状のある方
 - ・2週間以内にご家族や同居人にコロナ陽性者や濃厚接触者がいる方
 - ・ご家族以外のお見舞いの方
 - ・入院病棟以外の場所での面会



ふれあい



新しい浜松医療センターの建設工事は2023年10月末に完了する予定です。2024年1月1日開院1月4日の外
来診療開始に向けて、関係者一丸となって準備を進めてまいります。そして、「健やかな未来に向かって」歩みを進める医療施設として、最高のチーム医療を追求、提供いたします。

目次

- ① 下肢創傷センター開設について
- ② 面会制限について
- ③ 市民公開講座をWEB視聴について



発行：浜松医療センター
〒432-8580 浜松市中区富塚町328
TEL 053 (453) 7111
URL <https://www.hmedc.or.jp>



浜松医療センターは開設50周年
を迎えました。

健やかな未来に向かって

ご自由にお持ちください



市民公開講座をWEB視聴について

令和5年6月17日にコンgresセンターで開催しました第38回市民公開講座「よくわかる!がんの話～泌尿器と婦人科のがん・がんに関連する血栓症と放射線治療～」について、令和5年8月31日までWEB配信いたします。

視聴方法

市民公開講座のページからからご覧いただけます。（下記URLまたは右記QRコードからアクセス）

<https://www.hmedc.or.jp/about-us/characteristic/extramural/>



講演内容

講演1 泌尿器のがん

講師：永田 仁夫 泌尿器科部長

講演2 婦人科のがん

講師：高橋 慎治 周産期センター副センター長

講演3 最近話題のがんと血栓症

講師：山本尚人 血管外科部長

講演4 がんと放射線治療

講師：今井美智子 放射線治療科医長



下肢創傷センター開設について

下肢創傷センターの特徴

足の傷がなかなか治らないとき、その原因が実は糖尿病や腎不全・心不全、血液の流れの悪さといった理由であることが数多くあります。当院ではそのような足のトラブルを少しでも改善すべく2023年から下肢創傷センターを開設しました。形成外科、血管外科、内分泌・代謝内科、腎臓内科の各専門科、糖尿病看護認定看護師、フットケア指導士、皮膚・排泄ケア認定看護師、リハビリテーション技術科、栄養管理科、臨床工学科、臨床検査技術科、患者支援室から成るチーム医療で総合的に足のトラブルに対して連携を取り、治療を行います。足の傷はできる前の段階で予防することも非常に重要です。まずは専門外来（要予約）を受診していただき、必要な検査を行ったのちに治療へ進みます。



対象となる症状

- ・足のきずが以前より治りにくい
- ・足の指先がじゅくじゅくしてきた
- ・足の指先が黒くなってきた

担当医

形成外科及び血管外科の専門医が診察を行います。

主な治療方法

- ・創処置（軟膏治療・デブリードマン局所陰圧閉鎖療法など）
- ・血行再建術
- ・LDL吸着療法
- ・高気圧酸素療法

※足の状態等により治療方法を相談していきます。

外来日

専門外来として毎週月曜日、木曜日の午前外来診察を行います。

受診までの流れ

①予約

受診予約はかかりつけ医からの紹介予約のみとなります。受診希望の際はまずはかかりつけ医へご相談をお願いします。

②診察

受付後に診察（創傷、血流の評価）

③検査

全身状態の評価

④説明

結果説明と治療方針相談

⑤治療

※必要時内科への紹介、治療や経過が落ち着いている場合はかかりつけ医へ逆紹介
※入院患者様の場合は退院調整を実施、転院調整

チーム医療で連携・治療

